

みあと

都跡公民館だより

11月号

発行：(公財) 奈良市生涯学習財団
都跡公民館
〒630-8032 奈良市五条町204-1
TEL / FAX : 0742(34)5954
http://manabunara.jp/
miato@manabunara.jp

こんにちは 秋空のもと、公民館まつりの一環で公民館大屋根の看板をリニューアルしました。

新しい言葉は、「さあ行こう 未来へGO!」です。公民館利用者みなさんから集めた言葉を、自主グループ連絡協議会役員さんが、一つの言葉に込められた思いに寄り添い、まとめたものを形にしました。

新型コロナウイルス感染拡大で、私たちの生活は色々変わってしまいました。「コロナじゃなければ・・・」と嘆くことも少なくはありません。しかし、流行ってしまったものは仕方がない。もう過去には戻ることが出来ません。どんなに嘆き、悲しみ、苦しくても、私たちは、コロナ時代を生きているのです。

嬉しいことに、今は感染者数も激減しました。明るい未来があることを信じて！そして、次の世代が輝いた時代になるように！ みんなで **さあ行こう 未来へGO!** (館長 大谷華代子)



是非、見に来て下さい！



ふるさと「都跡」の宝

今回は、三十年前に「子どもみこし」を復活させた時の思い出を、語っていただきました。

『子供みこし』の思い出

子供たちにとって、そこに住んでいる町がふる里である。

私は平成三年二月十八日町内旅行会のバス旅行車中での気楽さも手伝って、『子供みこし』でもつくってみないかと二人、三人の人に話しかけました。早速賛成して頂きました。エリアは三・四条大路二・三丁目です。

昔は、村祭りやみこしは氏子だけのものでしたが、エリアを広げ、三条大路、四条大路のそれぞれ二丁目、三丁目としました。皆さんは、子供たちに何か手助けすることは無いかと日頃から考えておられたようでした。

平成三年六月、早速十数人で子供みこし運営委員会を立ち上げました。一番危惧されるのは交通事故傷害で、何人かの随行者が子供たちを絶えず守ることにしました。安全安心のため保険にも加入し、皆さんの理解を深めて行きました。

平成四年二月、漸く町内外の法人、個人に、『子供みこし設立の趣意書』をお配りすることが出来ました。寄付を頂いた件数は二四六件、浄財は一七六万余円で運営委員会七班のみなさんによって集められました。運動も一山超えると弾みがつき、みこし代六一万円。子供用法被100着、大人用三十着。鉢巻五百枚を買いました。平成四年九月六日柳沢神社宮司さんによって、みこしの入魂式も無事行われました。



いよいよ十月十日お祭りの日、子供たちは朝八時過ぎ大將軍神社に集まりだし、受付で運営委員さんから法被や鉢巻を受け取っていました。その後、参加した幼稚園児から小学六年生の子供たち四十一人が、出発前担当者から注意や説明を受けていました。ひたむきな子供たちの瞳を見るのはいいですね。

子供たちのおやつや昼食のパンとお茶を積んだ軽トラックが、次の休憩所に向けて先発し、続いて紅白のロープが、子供たちに曳かれるとぴんと張って、先導者の「よんよんよいよいとまかせ」の掛け声でみこしは動き出した。子供たちの表情は嬉しくてはちきれんばかりでした。沿道の両側は町内の人々やみこしを曳く子の親たちが、声をかけたり手を振ったり、写真を撮ったりと賑わっていました。

子供たちにとって、この日は終生忘れ得ぬふる里でのドラマだろうと私は思いました。ふるさと「都跡」を語ろう会

(南新町 浅田和三郎さん)

平成4年10月11日掲載



「三十年も前の話ですが今スタンプが不足しています。当時を思い出して是非参加したいだければ有難いです。」とコメントもいただきました。来年は、賑やかなお祭になると思いますね。



奈良市生涯学習支援サイト <http://manabunara.jp> 『学ぶなら』で検索

公民館だよりのバックナンバーは 施設案内→都跡公民館→公民館だより を見てネ!



ふるさと「都跡」の宝



『河邊隆光』つてご存知ですか？

その三
今回は、話を少し逸することになります。江戸幕府開闢百年頃の元禄期の様子について触れておきたいと思えます。

一、隆光という人

江戸時代は、初代將軍徳川家康から十五代將軍慶喜まで約二百六十年間続きます。江戸幕府開設から二代將軍までは幕府の基盤作りで、前代將軍の幕府政治（以後略して幕政）を引き継ぎ幕府の強化に努めます。しかし幕府成立百年以降の四代家綱から五代綱吉の頃は、幕政の安定期に入り、様々な政策がとられるようになりました。將軍が交代すると同時に、独自の幕政を行うことになり、前代を継承することは稀になったのです。そのような意味で、五代綱吉の時期は一つの大きな転機であったと言えます。

二、五代將軍綱吉の政治

綱吉は三代家光の第四子で、のちに上野国館林藩（こうずけくにたてばやしはん）二十五万石の藩主となり、一六八〇（延元八）年、兄の四代將軍家綱と二男綱重の遺言により將軍家を相続した人です。就任すると同時に前代の老中などをやめさせ、館林藩の家臣を側近や役人に登用し、將軍専制の傾向を強めた將軍で、その

方針に沿って登用されたのが、柳沢吉保と僧隆光なのです。



三、幕府開設百年

幕府が開かれて百年、幕府の基盤ができること、今までの武力を以て専制的に行う「武断政治」から、法律や制度を整備して国を治める「文治政治」へ切り替えることが必要と五代綱吉は考えました。

しかしこの時期、庶民の上に立つ武士たちは、戦国時代の殺伐とした気風が抜けきらず、うっぶん晴らしで行われた「辻斬り」や武士の特権「切り捨て御免」の風潮が残り、派手な服装をして集団で、街を徘徊し庶民に迷惑を掛ける「かぶき者」（かぶき（傾き））という言葉はかたよった異様な風俗や行動をいう。世界大百科事典第2版参照）などが横行した時世でありました。

綱吉は、このような武士の殺伐とした行為を終わらせ、平和な世を作りたいと考え、儒教や仏教を取り入れた政治を行うおうとするのです。

四、総括

政治転換期に当たる元禄時代の風潮とそれを打ち破ろうとした五代將軍綱吉の姿勢、判っていただけましたでしょうか。ではそれを支える僧隆光……

続きは次回をお楽しみに！
（ふるさと「都跡」を語ろう会
溝邊文昭）



*資料掲載などはこちら
ふるさと「都跡」を語ろう会
<http://miato.seesaa.net/>

◆図書紹介◆ ※公民館図書室の本です。

『たのしい ふゆごもり』

（作 片山令子・絵 片山 健 福音館書店）

「もりに おおきなきが いっぱんあって、その ねもとに こぐまと おかあさんが すんでいました。」で始まるこの絵本は、晩秋の森が見事に描かれ、くま親子の物語にどんどん魅かれています。かわいいこぐまちゃんとお母さんの会話には、何とも言えない幸せを感じます。紅葉の美しいこの季節に楽しみたい一冊です。



参加者募集！

秋の古民家体験
～奈良の民話とかまどご飯～
11月27日（土）午前中

*大人も子どもも楽しめます！
※詳しくは公民館まで



◇公民館 11月の行事予定◇

※感染症の発生、拡大状況によっては、中止・延期になる場合があります。

- 7日 みあときつずチャレンジ隊⑥
- 12日 回想法でころほっこり③ 13:30～
- 17日 みあと子育てサロン♪にこにこひろば♪
※移動図書館 13:45～14:30
- 18日 みあと高齢者学級④（自然観察会）
- 20日 都跡健康体操 9:30～10:30
なかよし文庫 10:00～15:30
ズームアップ現代 13:30～*参加者募集中
- 25日 子育て応援キラキラ講座 10:00～
～小学校低学年の子供たちへの接し方～
- 26日 回想法でころほっこり④
- 27日 秋の古民家体験～奈良の民話とかまどご飯～



※公民館にお越しの際は、検温（37.5度以下）および体調チェックの上、マスクを着用し、上靴、水分補給用飲み物持参をお願いします。体調がすぐれない場合のご来館はご遠慮ください。